



山吹小学校の取り組み

〈 補 足 資 料 〉

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関わって

個別最適な学びについて

個別最適な学び＝「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念

「①指導の個別化」と「②学習の個性化」から成り立つ

①指導の個別化

- ・教師が支援の必要な子どもにより重点的な指導などを行うことで効果的な指導を実現すること
- ・子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと

②学習の個性化

- ・教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習活動に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整すること

協働的な学びについて

- ・探究的な学習や体験活動などを通じ、子ども同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成すること
- ・集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が、組み合わせり、よりよい学びを生み出していくようにすることも大切

中央教育審議会 答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』

『自律して学び続ける姿』

- 興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組む
- 学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ
- 学びに見通しをもち、ふり返りながら学び続ける

名古屋市教育委員会「ナゴヤ学びのコンパス」

山吹小学校では、「いつ学ぶか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を子どもたち自身が選択し、自ら立てた学習計画に沿って学習を進める「YST（山吹セレクトタイム）」や総合的な学習の時間や生活科の時間などに異学年グループで探究的な学習を進める「ふれあい活動」を実施しています。

これらをはじめとした教育活動全体を通して、**個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実**を目指しています。

また、学びの土台づくりとして「**心理的安全性**」を高めることを意識しながら学校・学級づくりを進めています。



YST（山吹セレクトタイム）について

子どもたちが自律して学び続けることができるよう、「YST（山吹セレクトタイム）」を実施している。YSTでは、子どもたちが「いつ学ぶか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を自己選択・自己決定し、学習を進める。教師は、単元の目標や時間数の目安、学習の進め方、学べる教材などを記した「単元進度表」と翌週の予定を記した「週計画」を示し、子どもたちは、それらを基に、1週間の時間割を立て、自ら立てた学習計画に沿って自分に合ったペースで学習を進める。

《単元進度表について》



5年生 算数 「単元進度表」

プロジェクト名 「小数のわり算マスターになろうPJ」①

単元のゴール（学習内容）：小数のわり算を筆算や暗算で求めることができるようになる。
図を用いたり、小数の仕組みや計算の決まりを用いたりして、面積や体積、文章問題を解くことができる。

単元のゴール学び方 「互いのできる・わかるをさらに尊重し合う」「説明上手」

時間	ページ	問題	「今日のゴール」	計ス	振り返り
1 みんな	52～53	□ 1	インストラクション 「小数のわり算」とは	25	
2	54～55	□ 271 △ 3	だいち・ひなた・さくらの解き方を説明できるようにする。(整数÷小数)	26	
3	56～57	□ 171 □ 271 △ 2	整数÷小数のわり算を式に表し、その計算をすることができる。積の大小関係を調べ、理解することができる。	27	

単元の目標や時間ごとの学習内容、学び方の選択肢が記されており、子どもは、取り組むべき課題を終えたらチェック欄に自己評価を行う。

《週計画について》

週計画について

「今週・来週のチャレンジメモ」

項目	今週	来週
国語	金子みすのの海	国語をメインに学習
算数	表を使ってもうすべし	作業の時間を出し、算数2年生
社会	緑の観光大使	プレゼンテーション（2月10日、発表）
理科	生き物・科学展覧会	プレゼンテーション（2月17日、発表）
音楽	音楽先生	

ステップ1 進度表の予定を確認

<今週どんな感じ？来週どうする？>

ステップ3 計画を振り返る

「ワイオン時間割表」(3/8～3/12) NO.37

曜日	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12
1時間目	算数③	国語⑥	理科⑤	音楽④	算数⑥
2時間目	算数④	社会⑤	算数⑤	社会⑥	理科⑥

ステップ2 自分で時間割を組む

曜日	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12
1時間目	算数③	国語⑥	理科⑤	音楽④	算数⑥
2時間目	算数④	社会⑤	算数⑤	社会⑥	理科⑥

1週間の計画を記した「週計画」を毎週金曜日に配付する。子どもたちは、各教科で進める単元進度表の目安をもとに翌週の時間割を考える。教師は子どもが立てた時間割をチェックし、翌週に向けたアドバイスを行う。

《単元進度表を活用した学習の流れと内容》

算数 プロジェクト名					
「分数を掛けるってどういうこと？教えて！かけ算博士」					
単元のゴール（学習内容）					
- 分数の意味をもとに、分数に整数・分数をかけたり、分数でわったりする計算の仕方を考えることができる。 - 分数をかける計算の意味を面積図を利用して十分に理解し、計算することができる。 - 今までかけ算で求めてきたものが分数になっても求めることができることを確かめ、計算することができる。					
単元の学び方					
- 互いのできる・わかるを尊重し合う。学びのバランス。 「ノートレベルアップPJ」に載っている9つのことを意識してノートにまとめる。					
時間	教科書	問題	「今日のゴール」	計ス	習熟ブ
	Qubeno		レディネスチェック		
1	36		インストラクション 「分数をかけるって？」		
2	37		(分数)×(整数)の計算の仕方が理解できる。	13	①
3	38 39		(分数)÷(整数)の計算の仕方が理解できる。	14 15	
4	42 43		(分数)×(何分の1)の意味を考え、理解することができる。		
5	44 45		(分数)×(何分の1)、(分数)×(分数)の計算ができる。	16	② ③ ④
6	46		整数や帯分数を含む分数のかけ算を計算することができる。	17	⑤
7	47		小数と分数が混合したかけ算や3口の計算ができる。	18	
8	48		かける数と積の大きさの関係を調べることができる。	19	
9	49		チェックテスト①		まとめ①

1. 学びの価値をインストラクション

2. 全体の流れをループリックで共有

3. 学習する（観察&レクチャー）

4. 成果物の交流・価値の評価

5. 振り返る（学び方を学ぶ）

1 インストラクション

インストラクションとは、各単元の導入時など、YSTの実施前に行い、学習を通してどのような力を身に着けるのか、何ができるようになるか、どのようなかなど、単元のゴールについて確認をする時間のことである。また、すでに学習している内容「既習事項」や日常生活とどのような関わりがあるかなどについても触れ、学びへの動機づけを行うとともに学習の見通しをもてるようにする。動画や新聞などの資料を用意したり、読み聞かせやスライド、クイズなどを取り入れたり、体験活動を行ったりと、学習内容や児童の実態を踏まえて行う。



米農家 平均年収

200万円
～300万円

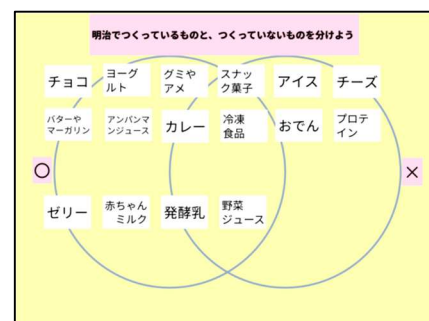
一等米の割合

全国平均: 79.0%

庄内地方: 96.7%



【スライドの例】



【仲間分けクイズ】

2 全体の流れを共有するルーブリック

子どもたちが見通しをもち自律して学びを進めることができるよう、単元進度表・インストラクションでは伝わりきらない内容や子どもたちが迷うことが予想される内容を踏まえ、3観点3段階のルーブリックを作成する。ルーブリックは、教育課程や子どもの実態を基に作成し、何がどのくらいできるようになるとよいのかなど、具体的な評価や目指す姿について教師と子どもが共有する。

		1	2	3
進度表 ① ◎○△で自己評価をしている ② 自分の考えを全て書けた		◎○△で自己評価をしている	◎○△で自己評価をしている	振り廻りしていない
プリントノート ・資料集を使った。 ・新たな発見をメモ(探求) ・穴埋めした ・色でキーワードチェック		やりきれず		
三つの視点の活用について 5つの視点から2つ活用して、レポートづくりを行う。→農家の人々がかかえる課題の解決方法を必ずまとめる。		・広内平野の地形や気候 ・1年間の米作り ・生産を高める工夫 ・農家を支える人々 ・消費者に届ける	・視点がない ・レポートをやりきれない	

【ルーブリックの例】

3 学習（観察&レクチャー）

子どもは、単元進度表をもとに、「いつ学ぶか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を自己選択・自己決定して学習を進めていく。教師は誰がどんな学習を進めているか観察し、子どもたちの声に耳を傾け、質問をしながら「なぜうまく進んでいるのか」「つまずきポイントは学習内容なのか、伝え方なのか」などの情報（単元進度表、ノート、テストなどで観察したこと）を集める。そして、誰がどこでどのように進み、つまずいているのか分析し、子ども一人一人に合わせて必要に応じて支援を行う。

4 成果物の交流・価値の評価

単元末には、テストや成果物で学びを確認したり、成長や積み重ねてきた学びの価値を交流したりする。成果物は、新聞やレポートにまとめたり、ロイロノートのスライドにまとめたりと、様々な形で共有をする。



【成果物の例】

5 振り返り（学び方を学ぶ）

日々の学びを振り返る、あるいは学び方を振り返ることで次へつなげる。教師も子どもたちの学習の成果はもちろん、学び方についても成長した点に声を掛け、次の学習がより充実したものとなるようにする。

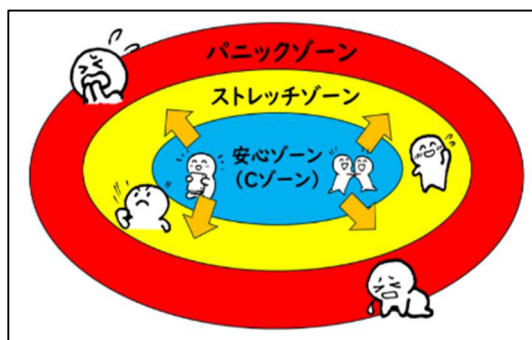
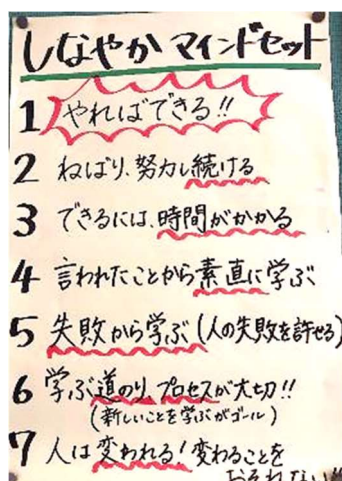
振り返り	計画する	指導する	学ぶ	振り返り	振り返り	振り返り
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り

【振り返りの例】

《子どもたちに示している学習掲示物について》

以下は本校で行ってきた「学び方」に関わる掲示の例である。子どもの実態に応じて、「学習の心構え」「学ぶための技能」「丸のつけ方」など、教師が目の前の子どもたちにとって必要な学び方を伝える。

子どもは、単元を通してこれらの学び方を意識しながらY S T（山吹セレクトタイム）を進める。



【学習の心構え】



【学ぶための技能を表す掲示】

LEVEL UP	丸つけレベル	
レベル0	丸つけしていない	×
レベル1	まちがって丸している	△
レベル2	正しく丸つけしている	○
レベル3	まちがい直しをしている	◎
レベル4	直して、まちがえた理由が分かる	🌸
レベル5	もう一回練習している	🌟

【丸のつけ方】

《心理的安全性を高める学級・学校づくり》

『集団の中で自分の考えや気持ちを誰に対しても安心して表現できる状態』のことを「心理的安全性」という。心理的安全性は、「ゆるやかな協働性」にもつながるが、それ以前に、学びの土台となる学校・学級づくりにおいて重要な要素であると考え。山吹小学校では、心理的安全性を高めるために次のような活動を取り入れている。

サークル対話

互いの表情が見えるようサークルをつくって対話を行う。テーマは、教師が示したり子どもから募集したりと、ねらいや実態に応じて決める。「クラス会議」として行う場合は、課題や問題の解決に向けて対話を行うが、常に一人一人が考えや意見が尊重されることを大切にする。たくさん発言



【サークルになって話をする児童】

することではなく、他者の発言に耳を傾け、その発言を受け止める姿勢を重要視することで、誰もが安心して対話に参加できるようにしている。

参考文献 「対話でみんながまとまる！たいち先生のクラス会議」

著：深見 太一

YAP（山吹アドベンチャープログラム）

課題解決を行う活動や関係を深める活動を行うことで、互いのよさを認め、仲良く活動できるようにする。

ふれあいグループの仲間との関係性を深めるために、山吹アドベンチャープログラム（YAP）という遊びの活動を設定した。仲間と協働して課題解決に取り組む活動や互いのことをよく理解するための活動などを行った。



【グループの仲間と遊びを行う様子】

参考資料 「学級ゲーム&アクティビティ100」

著：甲斐崎博史